

熊本県看護連盟



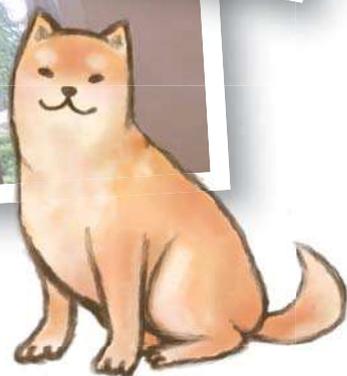
ひごつばき

HIGO TSUBAKI
vol.30

H30.1.16発行



世界一大きな鐘「飛龍(ひりゅう)の鐘」
蓮華院誕生寺興之院(玉名市)



CONTENTS

会長あいさつ(重松節美)日本看護連盟会長あいさつ(草間朋子) ……	2P
国会議員たより(あべ俊子・たかがい恵美子・石田まさひろ) ……	3P
国会議員たより(木村やよい)・看護協会会長あいさつ(嶋田晶子)／お知らせ ……	4P
秋の叙勲／厚生労働大臣表彰／第48回衆議院議員・玉名市議会議員選挙結果 ……	5P
石田まさひろ議員国政報告会並びに現場の声を伝える交流会 ……	6P
議員活動報告／対外的活動 ……	7P
若手・新入会員研修会／たかがい恵美子議員国政報告会(第1回) ……	8P
たかがい恵美子議員国政報告(第2回)並びに現場の声意見交換会 ……	9P
看護職と県議会議員との交流会 ……	10P
第1回会員研修会 ……	11P
リーダー研修会／第2回会員研修会 ……	12P
会員のひろば ……	13P
入会会員数・お知らせ・編集後記 ……	14P

会長あいさつ



熊本県看護連盟
会長
重松 節美

謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様方にはご清祥にお過ごしのことと存じます。2017年は、地球上のあちこちで事件・紛争・災害等が起こり何となく不安な日々が多かったように思います。2018年は穏やかな年でありますことを願います。

ところで2017年、看護連盟会員として最も嬉しかったことは、第48回衆議院議員総選挙で岡山3区から阿部俊子議員、近畿比例ブロックから木村弥生議員が見事当選されたことです。県下の連盟会員の皆様方の歓びの声・顔が今でも思い浮かびます。今後のお二方の更なるご活躍ご発展を祈念申し上げます。

さて、2017年度を振り返りますと、計画致しました事業は順調に実施することが出来ました。中でも「看護教育者交流会」は県連盟の新たな取り組みの一つであります。18歳選挙権が導入された一昨年7月の参議院熊本選挙区の10代の投票率は39.70%でした。看護職を目指す看護学生が「政策と政治」や「看護と選挙」等の大切さをより知って頂くために、先ず、看護教育者の皆様との情報交換の場を設けようと開催致しました。ご参加頂きました先生方からは「年に1～2回開催して欲しい」とか「他の学校の意見も聞けて良かった」等の声を聴くことができました。

また県連盟では、昨年12月から2018年度の看護連盟会員入会と、組織内候補予定者に決定した「石田まさひろを応援する会」への入会受付を開始しました。看護協会が目指す政策や意見を解決するためには、国政の場で看護職代表（参議院ではたかがい恵美子議員、石田まさひろ議員）の説得力ある発言の一助となる力強い組織力＝会員数が必要なのです。

今年も皆様方のご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

日本看護連盟会長あいさつ



日本看護連盟
会長
草間 朋子

「力強い看護連盟」を目指して

新春のお慶び申し上げます。

会員のみなさまは、それぞれの抱負を胸に、新たな年を迎えられたことと思います。

看護連盟は、今年も、看護現場が抱える課題を看護政策として確実に実現し、会員のみなさまが「看護連盟があつてよかった」と組織の存在を実感できる組織作り、活動を、みなさまとともに目指していきたいと思えます。

昨年の看護連盟の重点目標は、「組織力を強化する」ことでした。去る10月に行われました衆議院選は、連盟にとっても大変厳しい選挙でしたが、あべ俊子先生、木村やよい先生を再び国政の場に送ることができ、看護連盟の底力を社会にアピールすることができましたことは看護連盟にとって大きな収穫であったと感謝申し上げます。

日本看護連盟は、石田まさひろ先生を次の参議院選の組織内候補予定者としてすでに決定し、清水嘉与子顧問を会長に「石田まさひろを応援する会」を立ち上げ活動を開始しております。会員のみなさまには、看護職の国会議員を選出することの意味をしっかりとご理解いただき、「ベッドサイドから政治を変える」のスローガンの下、プライドをもって明るく、元気で働き続けられる環境づくりを目指して、一步一步、確実に歩いてまいりましょう。看護政策の実現は、4人の国会議員の先生の協力を得ながら、私たち看護職の手、力で自律して行わなければなりません。看護連盟の活動の成果は、会員のみなさま一人ひとりの努力の積み重ねの結果です。

今年も、くれぐれもよろしく申し上げます。

国会議員たより



衆議院議員
あべ 俊子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

熊本県看護連盟の皆様には日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は全国の看護連盟の皆様の多大なるお力添えのおかげで、5期目の国政へ送り出していただくことができました。本当にありがとうございました。また改選後は、財務金融委員会（理事）、予算委員会、地方創生に関する特別委員会の委員を拝命するとともに、自民党副幹事長としてもその任に就かせていただいております。

これからますます本格的となる超高齢社会を支えるためには、看護職の皆様の大きな力が必要です。今年は診療報酬・介護報酬のダブル改定を控えており、現場にもさまざまなかたちでの影響が及ぶと思われまふ。看護職の活躍の場も年々多様に拡がっておりますので、それら現場の声をお聞かせいただき、看護職の皆さんお一人お一人が働きやすく、やりがいをもって看護できるようしっかりと国政で声をあげてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



参議院議員
たかがい 恵美子

熊本県看護連盟の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。年頭にあたり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

さて昨秋の衆議院総選挙では、一致結束の大勝利を収め、新たな希望の拡がりを共有することができました。看護職はいのちの現場の守り手として、次代に相応しい社会保障制度体系づくりを牽引する大切な存在。その一人ひとりの真心に感謝し、看護職の誇りと気概を胸に、これからも果敢に挑戦を続けたいものです。

私こと、参議院では文教科学委員長に指名され、教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査にあたることとなり、また党政務調査会においても新たに文部科学部会副部会長を拝命しました。厚生労働部会についても引き続き、副部会長の任にあたりまふ。働き方改革を始め幅広い厚生労働分野の諸課題と真摯に向き合い、これからも、その解決のため堅実に職責を果たして参ります。

皆々様の温かいお支えに改めて心から感謝を申し上げ、また皆様にとりまして健やかな笑顔あふれるよき年となりますことを、重ねてご祈念申し上げます。



参議院議員
石田まさひろ

熊本県看護連盟のみなさま、あけましておめでとうございまふ。平成30年が、すばらしき一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、日本看護連盟の総会において、組織内候補予定者としてご承認いただきました。看護を取り巻く課題改善のため、看護職の代表として精一杯力を尽くしてまいります。また、9月には、参議院において厚生労働委員会筆頭理事を拝命いたしました。厚生労働委員会は、運営が最も難しい委員会の一つと言われておりますが、そのような中、他の会派と調整を行う緊張感の高い役割も務めさせていただくことになりました。鋭意力を尽くしてまいります。

また、皆様からお寄せいただく「現場の声」は、国政で白熱した議論が飛び交う中、現場に根差した説得力のある発言をするには必要不可欠です。今年も熊本県をご訪問させていただきますので、ぜひ、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

看護職のみなさまが「今日も良い看護ができた！」と実感できるよう、共に手を携え活動してまいりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

国会議員たより



衆議院議員
木村やよい

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨秋の衆議院議員選挙では、温かいご支援を賜り、ありがとうございます。看護連盟の皆さまのお力添えあって、再び国会にて、代議士として活動させていただくこととなりました。皆様への感謝の念は尽きません。心より御礼申し上げます。

これからも「誰もがより健康で活躍できる社会」を目指し、看護の代表の一人として、看護と政治をつなぐ役割を果たしてまいります。

今後は各地域での教育・医療・福祉の連携した体制の構築にも力を注ぎたいと思っております。現場の最前線でいただいたご意見やご要望を政策に反映してまいります。

政治家として、光の当たらぬところにあたたかな光を当てていく政治を忘れずに、女性の視点、母親の視点、看護の視点を生かし、応援していただいている皆様のご期待に添えるよう全力を尽くしてまいります。

本年もご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護協会会長あいさつ



熊本県看護協会
会長
嶋田 晶子

新春のお慶びを申し上げます。

平成28年の熊本地震から1年8ヶ月が経ちました。振り返りますと昨年いろいろな地域に出かけ、支援のお礼と災害時の県協会の対応について話をする機会をいただきました。

阿蘇地域においてはまだまだ人材確保の課題が大きく、平成29年5月に県と熊本復興応援ナース体制をとったことで、現在全国の看護師が阿蘇の6つの医療機関の応援に入っています。まだまだ厳しい状況が続いています。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

さて、本年度の事業も3分の2が終わりました。本年度の重点事業として取り組んでいます地域包括ケアシステムの構築の推進につきましては、昨年11月26日に人吉市「看護がつなぐ地域包括ケアフォーラムin人吉・球磨」を開催いたしました。地域の方にも参加いただき、人吉・球磨地域で地域づくりに活動されている方々の発表を通して、地域を「支える力」や「繋ぐ力」を共有できたこと、また、一人ひとりが地域の一員としてやれることをやっという思いが伝わってきました。今後ともフォーラムを通して看護がつなぐ役割を考える機会となるよう継続していきたいと思っています。

熊本県は昨年、地域医療構想を策定しました。熊本地震からの復旧・復興の課題に加え将来に向け医療資源が限られた中でも質の高い医療を提供する体制づくりが検討され、その実現に向けて①病床機能の文化及び連携の推進、②在宅医療等の充実、③医療従事者・介護従事者の養成・確保等が施策として挙げられています。今年度は診療報酬・介護報酬の同時改定や第7次医療計画、第7次介護保険事業計画等の策定作業が進められています。診療報酬・介護報酬の同時改定に向けては、日本看護協会のオンデマンド研修を3回組んでおりますので協会のホームページをご確認の上ご参加ください。

また、昨年の衆議院選挙では阿部・木村両議員が当選されましたことはうれしい出来事でした。石田・高階議員を含め4名の議員さんは、熊本の復興のためご支援いただいておりますことに深く感謝しております。

最後になりましたが、協会・連盟の組織強化のためには入会率を上げていくことが重要です。今年の干支は「戌」です。犬は安産で沢山子供を産むといわれて、皆様にとりまして良い年となりますよう心から願っています。

お知らせ

平成30年度県予算要望

熊本県看護協会と熊本県看護連盟は、来年度の予算編成の時期にあたる平成29年11月に、自民党熊本県支部連合会を通して、熊本県の来年度予算（看護関係）を要望しました。

これは自民党県連からの連絡を受けて、看護協会と看護連盟が毎年行っているものです。

主な内容は以下のとおりです。

- ①看護職員確保対策等の予算確保
- ②看護の質の向上のための予算確保
- ③在宅ケアの推進に係る予算の確保
- ④保健師の計画的な人材確保と資質向上に伴う予算の確保と統括保健師配置の促進

石田まさひろ議員の

国政報告会並びに 現場の声を伝える交流会

平成29年10月9日(月・祝)

●津奈木町農業就業改善センター

県南3支部 支部長 前田 豊

石田まさひろ参議院議員を講師に招いて、県南3支部(水俣市・津奈木町・芦北町)の支部役員、施設管理者を対象に、講演会及び意見交換会を開催し19名が参加した。講演会では、都市部と地方の看護政策について、国会で夜勤手当の処遇改善に取り組んでいることなどを話された。参加者との看護現場での問題について意見交換をするなど、とても有意義な講演会になった。



●やつしろハーモニーホール

県南2支部 支部長 上村 悦子



石田先生は休日返上で全国を廻っておられることを思うと一人でも多くの出席を願っての交流会。会長・幹事長・県南1・3の支部長、県南2支部会員及びOG 計28名出席で、はじめに衆議院解散で急な選挙を前に、候補予定のあべ俊子先生・木村やよい先生の必勝を祈念して開会。

国政報告に続き、現場からの声として記録、看取り、夜勤、訪問看護、在宅介護の問題等について発言があり、それに対して石田先生から現状や各地の現場の声も含めて説明してもらい、“いっしょに頑張っていきましょう”と、石田先生の現場主義・情報発信・未来志向の話を、身近に聞くことができた。出席者もこの機会があつてよかったという感想であつた。

●済生会熊本病院

熊本4支部 支部長 石本 裕子

今回は、当支部会員だけでなく、熊本市内や近隣の会員も含め63名の参加がありました。

また、石田まさひろ議員の国政報告の後、参加した会員との質疑応答の時間をたくさん設けて頂きました。

そこで、日頃悩んでいること等、率直な意見が出されました。

例えば、精神科病院では人口の多い市では入院患者が過剰となり、地方の病院に入院することになり、その地域の住民が入院できない状況があり困っている等。地域の連携だけでは問題解決が困難となっていることも分かりました。

このような事案については、是非現場の声として取り上げて頂きたいという意見がありました。

私達会員も自施設以外の様々な課題を知る機会となり、現場の声をどのように伝えるとよいのかを理解する会となりました。



議員活動報告より



あべ俊子 衆議院議員

平成29年9月、被災地の視察として平成23年東日本大震災、平成28年熊本地震のその後の状況について視察させて頂きました。まだまだ復旧には支援が必要です。引き続き力を注いでまいります。

第48回衆議院議員総選挙を振り返って、今回の選挙を自民党推薦というかたちで、比例復活の無い無所属での立候補としてのぞみました。

全国の看護連盟の皆さまには多くのご協力をいただき、本当に大きな力となりました。引き続き国政で働かせていただけることに感謝し、皆さまの声を届け、さまざまな課題解決に向けた変化を実感していただけるよう、誠心誠意、全力で頑張っております。



たかがい恵美子 参議院議員

衆議院解散・総選挙の見通しが示されて以降、一致結束して総選挙を戦うため23都道府県の候補者応援に走った。どの地域も看護職候補者を必ず当選させたいと願う同士の活動であり、その熱心な姿に心打たれ頭の下がる毎日だった。

地上の太陽の実現をめざして核融合エネルギー推進議員連盟メンバーとして「ヒゴITER」国際核融合エネルギー機構長の来日公演に参加。一次エネルギーの研究開発に挑む科学者の情熱を感じた。

日本さくらの会評議員として、ハワイさくらの女王プリンセスご一行をお迎えして友好を深めた。日本の歴史や文化伝統を学びその普及に貢献する活動を今後も継続していく。



石田まさひろ 参議院議員

前回に引き続き参議院自民党の国会対策委員会副委員長を務めることになり、9月に参議院厚生労働委員会の筆頭理事を拝命しました。筆頭理事の大きな役割の一つは、委員会での法案審議等について、野党と調整・交渉することです。担当する委員会は厚生労働委員会、沖縄北方問題特別委員会、ODA特別委員会です。それぞれの委員会でしっかり審議し法案が成立するよう、国会全体の動きとの調和を図りながら環境を作るのが一番の仕事です。

次期国会には、「働き方改革」や受動喫煙防止に関する法案など重要な法案が控えています。今国会でも早速調整が始まっています。法案が深く審議され、成立につながるよう、役割をしっかり全うしていきます。



木村やよい 衆議院議員

7月～9月は地域での活動を通して現場の皆さまの声に耳を傾けてまいりました。10月22日深夜、台風21号による被災状況を確認するため京都3区内を巡回し、避難所や水防団各所へのお見舞いに伺った。被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

診療報酬・介護報酬改定について議論した。要望として成果を上げた介護職へのインセンティブ付加を評価したい事を伝えました。また、入院基本料の行方もフォローしていきます。

自由民主党女性局近畿ブロック会議に出席、党女性局次長そして京都府連女性局長として、女性局の活動課題や女性議員を増やしていくことの必要性などを発言しました。

全国ポリナビワークショップin大阪に出席、看護師たち約4万人が集まり、AI（人工知能）やロボット産業が発展しても、人が人を支える。人間力を養う基礎教育の充実が必要であり、50年先も100年先も魅力ある仕事であらねばと考えます。

「自分たちが 提案したい法案」 を議論

～若手・新入会員研修会～

第1回目 研修会

- ・全病院1人1台タブレット法
- ・長期休暇法
- ・家族支援加算
- ・緊急入院対応加算
- ・労働時間賃金確保法

第2回目 研修会

- ・最低月10日休み制度
- ・前残業加算
- ・電子カルテ統一法
- ・看護サマリー看護加算
- ・一番に帰ったら5000円加算

平成29年度は、研修会を第1回目は8月26日(土)、第2回目は9月1日(金)、2回にわたって実施し、出席者は122人と126人で、計248人が受講しました。

研修内容は、2回とも「講演」と「グループワーク」で、概要は以下のとおりです。

- ・講演「Nurseの知らない世界」、講師：熊本県看護連盟青年部リーダー 田中裕貴氏
- ・グループワーク「Nurseしか知らない世界」発表、模擬投票

グループワークは、21グループ、24グループに分かれ、テーマを「看護の現場の問題と対策を考え、必要と思われる法案を出す」として話し合われました。

それぞれ5つのグループから発表があり、その法案に対して投票が行われました。ユニークな法案の提案もありますが、看護職の願望が良く出ていると思います。

受講者のアンケート結果

- ・講演、模擬投票共に、ほぼ全員が「良く理解できた」、「理解できた」と回答しました。
- ・看護連盟や国会議員活動について、聞いたことがあるかという問いに、1/3の人が「聞いたことがない」と答えています。まだまだ、連盟活動を周知していく必要があります。
- ・受講者感想で、「本日の研修に参加して、自分たちの職場を変えるためには政治の力が大きいということを実感した。職場や自宅に帰ってから、後輩や家族に本日のことを話したい。」というような意見もありました。

10月21日(土) 第1回

参議院議員たかがい恵美子

国政報告会

会場：済生会熊本病院

県南1支部 幹事 岩井芳孝



今回の国政報告会は、衆議院解散、そして衆議院議員選挙を翌日に控える形となり、更には台風が接近中という状況での開催であった。たかがい議員もその影響で、熊本滞在時間の短縮、加えて飛行機の遅れ、渋滞ということで予定時間に会場に到着できない状況であった。その間を、同じ参議院議員である熊本選出の馬場成志議員が奮闘され、震災時の各地元議員がとった行動や、各々が担っている議員としての役割について、さらには看護の代表者であるたかがい議員、石田議員などの活躍ぶりについてたかがい議員到着まで熱弁を振るわれた。

たかがい議員は到着されるとすぐに壇上に上がり話を始められたが、内容としては自分のことだけでなく、むしろ石田議員の話を多くされ、その功績として、現場からの看護師の数不足の声を元に創設された「看護職免許保持者の届け出制」や、医療の現場での認知症患者の対応を診療報酬とする「認知症ケア加算」を手掛けられたことなどを話された。

その後、移動を急がれる中、可能な限り来場者とギリギリまで握手をされ、次の予定地へと向かわれた。今回は短時間となったもののたかがい議員の話を聴き、看護の代表者である議員を通して現場の声が少しずつ国政に伝わり、変化をもたらしている事が実感できたように思う。多くの看護師にこのような場に参加してもらい、代表者を国政に出すことの意味を知ってもらいたいと思う。

12月16日(土) 第2回

参議院議員たかがい恵美子 国政報告並びに 現場の声意見交換会

～熊本でも「雑談の会」スタート～

会場：熊本機能病院・菊池都市医師会立病院・大津町生涯学習センター

熊本県看護連盟 幹事長 工藤秀子

今回は、県北を中心に3つの会場で、たかがい恵美子議員との意見交換会を行いました。参加者から、「子育て中の看護職にとって働く環境はまだまだ厳しい」「看護補助者の導入はいいのだが、その研修に看護師の時間がとられる。」「看護師の採用もだが看護補助者の採用に苦慮している。」等の意見が出ました。議員は、現場の皆様がどんなことに困っているのか、どうしたいのか、それは国政の場で解決できることかといった視点で私たちに投げかけられました。

「たかがい恵美子の活動報告」29.11.30号(日本看護連盟HP・議員紹介)に「地域ケアの縁結び出雲で雑談の会」という記事に、「建設的なアイデアが飛び出し」と記載があり、『現場の声を国政に』とはこのような活動の積み重ねが大切だと思いました。

今回の集会は、熊本での「雑談の会」スタートと感じました。「雑談の会」は、日頃の「ぐち」から一歩前に踏み出し、解決の糸口をつかみ、いい方向にもっていくことのできる集まりになる、これが自ら動く「政治活動」の第一歩でしょうか。問題・課題を解決するために、どのようにしたいかを考え、データを集め、どのように活動するか。発想の転換ときっかけを作り、働く環境をよくするための政治活動を皆様とともにやっていきたいと思ひます。今後も少人数での催しを計画していきます。皆様の参加をお待ちしています。



第4回

看護職と県議会議員との交流会

第4回看護職と県議会議員との交流会が、平成29年11月28日(火)11時30分から熊本テルサで行われ、ご多忙の中自民党県議34名と看護協会役員3名が出席されました。

県連盟関係者は、役員及び13支部幹事長等を含め32名が出席しました。重松会長があいさつで、自民党県議全員出席いただいた事にお礼を述べられ、県政を担っておられる自民党の先生方と同じテーブルで、看護の見えない部分や問題、課題を共有しこれからの活動に繋がりたいと結ばれました。

また、前川幹事長、村上県議団団長、嶋田熊本県看護協会会長から挨拶を頂きました。続いて、熊本県看護協会 訪問看護ステーションくまもとの管理者 木下弘子先生により「訪問看護ステーションの現状と課題」の講演が20分間行われました。

2025・2040年問題・多死社会・地域包括システム・なぜ!今訪問看護なのか、熊本県は

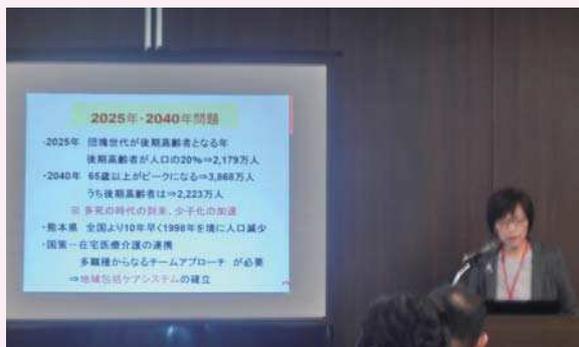
全国より10年早く1998年を境に人口減少、多死の時代の到来、少子化の加速、また、訪問看護の利用者も県内全域で増えてはいるものの、全国平均を下回っている。小規模な事業所が多くスタッフの負担が大きい、経営の不安定、人材育成が課題等の具体的な内容が報告されました。

県議の方からも、訪問看護についての意見が多くありました。地元の訪問看護ステーションの数や、活動の内容又料金制度、訪問時の駐車場の確保の問題等々――。

今回は、4回目の交流会でもあり、スムーズに会話が始まり次第に熱がこもり活発にお互いの意見交換が出来ました。

直接話を聞くことで、県議会議員の方より「勉強になった」との声や、具体的な要望や対策をどうしていけばよいのか?等の議論も交わされ、時間が足りないとの声もありました。

有意義な会となり13時に終了いたしました。



第1回会員研修会

笑いの現場に学ぶ



平成29年度の第1回会員研修会は、9月22日、ホテル熊本テルサで行われました。重松連盟会長より「会員ハンドブック」を基に看護連盟設立の経緯や意義が語られたのち、研修会が始まりました。講師のWマコト(中山真・中原誠)さんは漫才コンビとして活躍後、それぞれが放送作家に転身。ライブやイベントの企画、構成を手掛ける一方、漫才セミナー講師としても活躍し、吉本興業のコミュニケーションお笑い研修プログラム認定講師に認定されています。「笑いの現場から学ぶ! 最強医療コミュニケーション」と題して、お馴染みの芸人さんや母親を事例に、笑いの五原則(安・共・認・楽・善)が説明されました。会場の参加者を巻き込みながら、会話を通じて学ぶことのできる楽しい研修でした。



参加者からの意見・感想

1. 連盟についての意見・感想

- ・看護連盟の歴史を学ぶことの大切さを切に思った。歴史があるから今の職場環境を作ってもらった。
- ・自分達の問題は、自分達で解決していかなければと伝えていきたい。
- ・議員の活動や、これまでの法律改定を知ることができ、私たちの一票がとても大切だと分かった。
- ・当選することで発言ができる。選挙で投票すること、連盟の重要性について再認識できた。
- ・ハンドブックを熟読したい。連盟活動に協力したい。などの声が多数寄せられました。

2. Wマコトさんの研修についての意見・感想

- ・笑いありの講演で、時間がたつのもあっという間に感じ、笑うことの大切さを改めて感じた。
- ・業務を安全に行うには、同僚との関係が大切なので、明るく笑顔で接していこうと思った。
- ・明日からすぐに実践できる内容ばかりで、さっそく職場で使っていきたいと思いました。
- ・相手へどのように伝わるかも自分次第で、お互いプラスになるよう、笑いの五原則を使っていきたい。
- ・実際に芸人さんを挙げて説明して下さったことで、内容を理解しやすかった。
- ・利己的に考えるのではなく、自分の視野も含め、他己的に、客観的に自分を見ることの重要性を学べた。
- ・1時間半笑っぱなしの講演ははじめてで、とても楽しかった。
- ・声なき声に耳と目と心をかたむける。プラスのコミュニケーションを心がけ、頑張りたい。
- ・芸人さんも人とのコミュニケーションを考えて仕事をしているのだと思いました。
- ・あまり愛想がいいほうではないが、やはり笑顔がいい関係性を作るうえで必要なのだと感じました。
- ・話術、間の取り方、集客力、説得力はうまいプロですね。お笑いとお笑いは違う。勉強になりました。
- ・90分が楽しく過ごせました。たぶん、明日は笑える職場の雰囲気は一役を私が・・・。
- ・心がふるえました。思っているけど、知っていたけど今は出来ない。やって行こうと思いました。
- ・自らがどうやったら目の前の人笑顔になれるか。まずは自分から笑顔で頑張りたいと思います。
- ・笑いを元にして、職場を明るくして行きたい。

リーダー研修会に参加して

熊本大学医学部附属病院 大塚二美代

平成29年年度リーダー研修が10月14日、熊本赤十字病院 多目的ホールで開催され、施設リーダーをはじめ病棟リーダー、支部役員、会員の総勢174名の参加がありました。

講義では、土肥法律事務所の弁護士・看護師の友納理緒先生より「法律を守って楽しく連盟活動」というテーマで、連盟活動とは何か、看護職の議員を国政に送ることの意味や意義、更には選挙期間中に私たちが“できること”と“できないこと”について、法的な視点からお話をいただきました。

講義に引き続きグループワークでは「リーダーとしてどのような活動をしていくか。なにを どのように！」というテーマで話し合い、どのグループも看護連盟の会員数が看護協会の会員数の50%に満たない現実に対し、どのように周知し会員の増加に繋げていくかがテーマとなっていました。

主な意見として、「連盟の活動が若い人に理解されていないため新人だけでなく看護学生の時から入会を広めていく。そのためにはどのように自分達にフィードバックしていくかを知ってもらうことが加入率の増加に繋がる。新人教育のなかで看護連盟活動も紹介する。研修に参加した人は連盟活動がわかるが病棟スタッフに周知するために、広報誌“ひごつばき”の感想を一言ずつ書いてもらう。施設リーダーだけでなくの経営者にも研修参加を呼び掛ける。」などの意見がでました。

現在の職場環境があるのは、歴代の議員の方々の実績によるものですが、まだまだ私達の職場は多くの問題を抱えています。もっと働きやすい環境や待遇改善のために、まずは私たちが施設・病棟リーダーとして、現場の声を届けるべく会員を一人ずつでも増やすことが大きな役割だということを再認識できた研修でした。

第2回会員研修に参加して

天草病院 河内ひろえ



11月24日熊本テルサに於いて研修が行われ、日本看護連盟常任幹事の長沢恵美子先生により、未来に向かって私達ができること「生き生きと働く環境を作りたい」―看護と政治―という講演があった。130名以上の参加があり先生からは、国会に看護職がいることの強み、改革するためには何年もかかる。現状を改革するためには現場の声を届け続けることが大事と話された。参加者は、現場の問題を良くしていくには

どうしたら良いか？連盟の活動をスタッフへどう伝えるか？という内容で意見交換を行った。今まで、看護連盟＝政治絡みと良いイメージがなかったが、自分たちが働きやすい環境にする為には、政治の中に私たちの代表をおいておく必要があるという共通認識を持った。SNSが普及している現在、皆さんぜひ看護連盟のホームページを開き活用して行きましょう。



「会員の広場」宛
 メール: knf043@world.ocn.ne.jp
 FAX: 096-383-0163

私の手作り弁当  **第2弾**

沢山お寄せ頂き有難うございました。



「私の手作り弁当」提供施設
 ・聖ヶ塔病院
 ・鴻江病院
 ・玉名地域保健医療センター
 ご協力ありがとうございました。

※次年度は「我が家のペット自慢」です！
 ペットの写真と一言コメントを4月末までに、上記、「会員の広場」にメールでお寄せ下さい。



♥ あなたの脳を活性化しましょう ♥

数字が入る四字熟語を考えましょう。

- ① 海□山□
- ② □発□中
- ③ □朝□夕
- ④ □人□脚
- ⑤ □転□起
- ⑥ □載□遇
- ⑦ □苦□苦
- ⑧ □者択□

(回答は次号掲載)